



TOHOKU UNIVERSITY

東北大学大学院歯学研究科

歯学部

東北大学病院附属

歯科医療センター

NEWS LETTER

第2号 2008.12



最近の歯学研究科・歯学部の動き

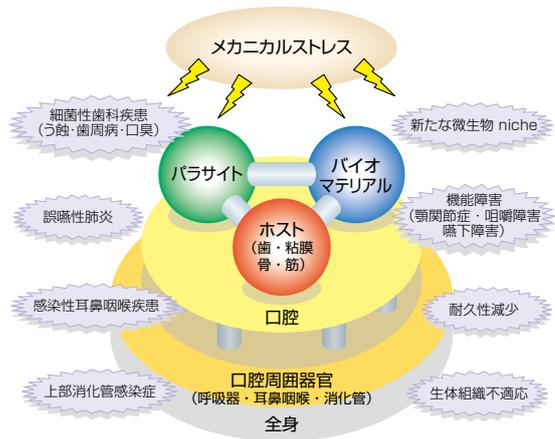
歯学研究科長・歯学部長 笹野高嗣

本年6月にNEWS LETTERを創刊し、今回は第2号となります。今回は最近の歯学研究科・歯学部の動きについて紹介いたします。歯科医療センターについては次ページを御覧ください。

歯学研究科・歯学部は、大学の使命である研究、教育、社会貢献に向けて様々な努力を重ねております。

まず、研究・教育については、「インターフェイス口腔健康科学」という新たな概念を基盤としております。前号に詳しく紹介いたしましたが、口腔は、ホスト、パラサイト、バイオマテリアルの3つのシステムから成り立ち、このシステムにメカニカルストレスが加わることが口腔の特色といえます。健全な口腔機能は、3つのシステム間インターフェイスの調和で成り立ち、この調和の破綻により口腔疾患、ひいては全身疾患が惹起されることとなります。この概念に基づき、研究事業推進、外部資金獲得、国際共同研究推進、学生支援などが実施されています。これまで、国際シンポジウム開催(平成17年度、19年度、20年度)、英文モノグラフ上梓、特別教育研究経費(文部科学省)採択、海外大学等との学術交流協定締結および人事交流、若手研究者育成プログラム(研究費助成)、国際学会発表助成制度など着実に成果が得られています。

次に、社会貢献策として「地域歯科保健推進ネットワーク」について紹介いたします。本年度創設43年となる本研究科・歯学部は、東北地区唯一の旧国立大学歯学部であり、東北地区の地域歯科保健を担う歯科医師の教育と歯科保健推進事業を行ってまいりました。しかしながら、東北地区の口腔健康レベルは全国レベルに比べて劣っており、我々は新たな知の集約をもとに歯科保健を推進する方策が必要と考えました。すなわち、東北一円の歯科保健推進に関わる行政・組織・団体から構成される歯科保健推進ネットワークの構築を計画し実施しております。ネットワークのキー・センターとなるのが、昨年度に設置された地域歯科保健推進室です。この推進室は、地域の歯科保健に関わる



健全な口腔は、各システム間インターフェイスの生物学的・生体力学的調和の上に成り立つ

地域歯科保健推進ネットワーク



る問題点を抽出・分析し、歯学研究科全体の知の集約をもって対策や解決策を提示するシンクタンクとして機能します。現在、地域歯科保健推進室では、宮城県の歯科保健総合推進事業や仙台市「歯と口の健康づくりネットワーク」会議へ参画し、美里町、登米市との歯科保健推進に関わる協定を結んでおります。さらに、市民向けの公開講座や各保健専門職向けの教育講座等の企画を行っております。

以上、歯学研究科・歯学部の最近の動きを御紹介いたしました。今後とも、皆様の御意見をもとに前進していきたいと考えております。どうかよろしく御願い申し上げます。

東北大学病院附属 歯科医療センター移転について

歯科医療センター長 小松正志



新外来棟移転への経緯

歯科医療センターは昭和42年6月に歯学部附属病院として開院以来、40年間、歯学教育および研究の現場として数多くの歯科医師や研究者を育成し、歯科医療の中核病院として社会に貢献してきました。平成15年10月には医学部附属病院との組織上の統合がなされ、平成19年2月に病床および手術室を医学部附属病院に移転し、名称を歯科医療センターと改め現在に至っております。既に工事が始まっており大分できあがってきましたのでご存じかと思いますが、現在の東北大学病院（旧医学部附属病院）外来棟北側（木町通り北5番丁）に5階建て延べ床面積12,000㎡の新外来棟が完成し、当センターの外来棟全ての部門が移転する予定です。

移転のタイムスケジュール

工事は平成19年度から始まっており、現在地下および基礎工事が行われております。今年度に建物本体工事が進められ、来年度に完成予定となっております。当初予定では10月完成予定とのことでしたが、工事が順調に進んでいることから、完成が早まることが予想されております。工事の進行状況等により、移転は前後し、確実な日程は未だ決まっておりません。外来棟移転に関する検討組織として、本年5月に新外来棟移転実行委員会を立ち上げ移転に関する様々な課題を審議・実行しています。

各診療科の配置

歯科部門は、この建物の3階～5階に診療部門が、地下に保管スペースができることとなっております。3階部分は医科部門の小児科等と共有のフロアとなり、小児歯科、障害者歯科、矯正歯科・咬合機能成育室が、4階部分は口腔外科、顎顔面外科、歯科麻酔科、口腔診断科、総合歯科、予防歯科が、5階部分は高齢者歯科、保存修復科、咬合修復科、歯内歯周病科、咬合回復科、顎口腔再建治療部が入る予定となっております。

外来統合に向けた経営改善（小松プラン2008）

歯科医療センターの経営状況については、2年連続して病院収入目標額の未達成等、外来統合を目前に控えた中で極めて憂慮すべき状況にあります。外来統合に向けた経営改善及び特定機能病院に向けての取り組みを小松プラン2008として示し、歯科医療センター職員の叡知を集め、一丸となりこの難局を乗り切ろうとしています。



工事中の新外来棟（11月現在、歯科医療センター8階から南東に望む）

特定機能病院としての歯科部門

歯科医療センターは、新外来棟完成に伴い外来部門が移転することにより、もとの病院へと戻ります。現在の東北大学病院は特定機能病院に指定されており、統合に伴い歯科部門についても、特定機能病院として診療を行っていくこととなります。なお、特定機能病院とは一定の条件を全て満たし、厚生労働大臣の承認を得た病院のことで、一般の病院や診療所から紹介を受け、受診することが基本とされています。紹介状のない場合は、一部の患者を除いて、初診時に特定療養費（東北大の場合は3,150円）を負担していただいております。

以上述べてまいりましたように、外来移転、統合に関しては医科との統合のメリットを最大限活かし、地域歯科医療機関との密接な連携関係を構築し、患者紹介率のアップ等を図らなければなりません。御協力を宜しく御願い申し上げます。

東北大学病院新外来棟の位置と完成イメージ図



第3回インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム 開催のお知らせとご案内

The 3rd International Symposium for Interface Oral Health Science in Sendai

副研究科長 菅原俊二

東北大学大学院歯学研究科は、「インターフェイス口腔健康科学」を次世代の歯学研究のメインテーマとして掲げております。詳細については本ニュースレター創刊号3ページをご覧ください。

この概念に基づいて、去る2005年2月には、「インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム」を初めて開催し、そこで発表された内容をまとめた英文書籍「Interface Oral Health Science (International Congress Series 1284)」をElsevier社より上梓致しました。さらに、2007年2月には第2回シンポジウムを開催し、「Interface Oral Health Science 2007」をSpringer社より上梓致しました。今回、第3回シンポジウムを下記の予定で開催する運びとなりました。今回は、歯科再生医療、メカノバイオロジーおよびバイオマテリアル界面に関するシンポジウムを中心に企画いたしました。また、細胞のバイオメカニクスに関する世界的研究者、東京大学大学院医学系研究科医用生体工学講座の安藤讓二教授に基調講演をいただきます。

第1回、第2回同様、一般応募によるポスターセッションを企画しております。ご発表いただいたポスター内容につきましては、基調講演およびシンポジウムの内容とともに、英文書籍として出版させていただく予定です。さらに、本シンポジウムでの若手ポスター優秀賞受賞者は本シンポジウム第2部として米国ボストンにて開催されるTohoku-Forsyth Symposium (メインテーマ：ホストーパラサイト・インターフェイス、2009年3月11、12日予定) に招待され、発表の機会が与えられます。

多くの皆様のご参加、演題応募(2008年11月30日メ切)を心よりお待ちしております。

- 日 時：2009年1月15日(木) 13:00～ 16日(金) 17:15
- 会 場：仙台国際センター 3F白樺(口演会場)、2F橘(ポスター会場および懇親会会場)
- 参加費：一 般…10,000円(プロシーディング英文書籍代を含む)
大学院生… 7,000円(プロシーディング英文書籍代を含む)
学 生……………無料

詳細については、本シンポジウムのホームページをご覧ください。
<http://www.ddhtohoku.jp/symposium/index.html>

■ シンポジウム概要

Plenary Lecture

安藤讓二(東京大学大学院医学系研究科 医用生体工学講座システム生理学 教授)

「血管内皮細胞における血流力学刺激の感知・応答機構」

Symposium I 歯科再生医療 (ノベルバイオエンジニアリング)

組織構築に関わる分子の同定とその機能解析から、再生医療に展開する為に必要な関連知見の統合と、研究基盤の構築をめざす。

- ・Yoshihiko Yamada (Chief, Molecular Biology Section, NIDCR/NIH, USA)
- ・阪井丘芳(大阪大学大学院歯学研究科 顎口腔機能治療部 教授)
- ・辻孝(東京理科大学基礎工学部生物工学科 教授)
- ・山本朗仁(名古屋大学大学院医学研究科 准教授)
- ・福本敏(東北大学大学院歯学研究科 小児発達歯科学分野 教授)

Symposium II メカノバイオロジー (バイロジカル・バイオメカニクス)

分子～細胞～組織レベルでの力覚感知メカニズムとその応答に関する最新の知見を紹介する。

- ・Rik HUISKES (Eindhoven Univ. of Technology, The Netherlands)
- ・佐藤正明(東北大学医工学研究科 教授)
- ・姜英男(大阪大学大学院歯学研究科口腔生理学講座 教授)
- ・高橋一郎(東北大学大学院歯学研究科 顎口腔矯正学分野 准教授)
- ・若森実(東北大学大学院歯学研究科 歯科薬理分野 教授)

Symposium III バイオマテリアル界面 (バイオマテリアル・ホスト)

材料表面のナノ形態、表面と生体分子との相互作用、材料の力学的性質および化学的要因等が生体組織の反応にどのように影響を及ぼすかを考える。

- ・Ichiro Nishimura (Professor, The Weintraub Center for Reconstructive Biotechnology UCLA School of Dentistry, USA)
- ・岡崎正之(広島大学大学院医歯薬学総合研究科 歯科理工学教室 教授)
- ・埴隆夫(東京医科歯科大学生体材料工学研究所 教授)
- ・新家光雄(東北大学金属材料研究所 教授)
- ・鈴木治(東北大学大学院歯学研究科 顎口腔機能創建学分野 教授)

掲 示 板

詳細は歯学研究科ホームページ(HP)をご確認ください。 <http://www.ddh.tohoku.ac.jp/>

これからの主な行事

詳細はHPを参照してください。

- 平成20年
12月12日(金) 地域歯科保健推進室主催「お口のコミュニティ・ヘルスケア学習会」(地域歯科保健活動に参加した地域住民等を対象) 仕事納め
- 平成21年
1月5日(月) 仕事始め
1月15日(木)・16日(金) 第3回 インターフェイス口腔健康科学国際シンポジウム
2月21日(土)・22日(日) 第27回 日本接着歯学会、仙台市福祉プラザ 大会長：小松正志
2月25日(木)・26日(金) 学部入学一般選抜試験
3月11日(木)・12日(金) Tohoku-Forsyth Symposium (メインテーマ：ホスト・パラサイト・インターフェイス)、ボストン、USA
3月25日(木) 東北大学卒業式
4月7日(火) 東北大学入学式
6月4日(木)・5日(金) 第19回 日本顎変形症学会総会・学術大会、仙台国際センター 大会長：川村 仁
7月30日(木)・31日(金) オープンキャンパス (学部入学志願者対象)
10月29日(木)・30日(金) 第131回 日本歯科保存学会、仙台国際センター 大会長：小松正志

歯学研究科大学院生募集

修士課程6名、博士課程47名を募集します。社会人大学院生の制度もご活用ください。連絡先：教務係(022-717-8248)

■平成21年度 2次募集

平成20年12月1日(月)～5日(金) 入学願書受付
平成20年12月25日(木) 筆記試験・面接試験
平成21年1月22日(木) 合格者発表

■平成21年度 3次募集

実施する可能性がありますので1月以降にHPをご確認ください。

平成22年度歯科医師臨床研修募集

第6回臨床研修指導歯科医講習会

南東北がんプロフェッショナル養成事業
がん口腔ケア特別研修(歯科衛生士・看護師等対象)
口腔がん検診特別研修(歯科医師対象)

これらの情報は更新されますのでHPを参照してください。

第27回日本接着歯学会学術大会案内

大会長 小松 正志 準備委員長 笹崎 弘己

「接着に影響を及ぼす因子と臨床成績」をメインテーマに第27回日本接着歯学会学術大会を平成21年2月21日(土)、22日(日)の両日仙台市の仙台市福祉プラザで開催致します。会長講演の他、特別講演は東北大学理事の渡邊誠先生に、海外招待者特別講演は前ドイツ・ケルン大学教授W. J. Finger教授に行っていただく予定です。更に「修復物の接着性の劣化と長期予後成績」に関するシンポジウムを行います。多数の皆様のご御参加をお待ちしています。

第19回日本顎変形症学会総会・学術総会

大会長 川村 仁 準備委員長 後藤 哲

平成21年6月4日・5日の両日、仙台国際センターを会場に第19回日本顎変形症学会総会・学術総会を開催いたします。今回は、著しい骨格性不正咬合を示す顎変形症に対して質の高い診断と治療を目指し、『Quality of Treatment』というテーマで議論を深めたいと考えております。また、米国よりDr. WH Bellをはじめ3名の演者を迎え特別講演を予定しております。詳しくは大会のホームページ<http://square.umin.ac.jp/sendai19/>をご覧ください。

人 事

4月からの異動 (講師以上)

分野名	職名	氏名	異動内容
4月 口腔ケア推進開発寄附講座	教授	濱田 泰三	採用
5月 口腔システム補綴学分野	准教授	伊藤 秀美	昇任
9月 小児歯科	講師	畑 真二	退職
10月 顎顔面外科学分野	講師	長坂 浩	採用

平成21年3月 定年退職予定者

分野名	職名	氏名	異動内容
口腔器官構造学分野	教授	菊地 正嘉	定年
口腔システム補綴学分野	准教授	伊藤 秀美	//
口腔生理学分野	技術専門職員	鈴木 興蔵	//
//	//	佐藤 博泰	//
口腔病理学分野	//	阿部 厚	//
歯周病科	技能職員	井場たみ子	//

編集後記

本NEWS LETTERも、早いもので第2号発刊の運びとなりました。ご執筆頂いた諸先生方には、お忙しい中、長文の記事を短期間をお願いすることになってしまい、まことに申し訳ありませんでした。今号は、外来棟の施設整備に関する動向から国際シンポジウムのご案内まで、創刊号にも増して情報盛りだくさんです。私達の歯学研究科・歯学部・歯科医療センターが、「インターフェイス口腔健康科学」の旗印の下、ハード面でもソフト面でも着実に前進しつつあるのを読者の皆様にも感じていただけないのではないかと思います。編集委員一同、今後とも、より良い紙面づくりに努力してまいりますので、ご意見等ございましたら何なりとお寄せください。(戸田孝史 記)

東北大学大学院歯学研究科地域歯科保健推進室

〒980-8575 仙台市青葉区星陵町4番1号

TEL/FAX: 022-717-8318

URL: <http://www.ddh.tohoku.ac.jp/> E-mail: newsletter@ddh.tohoku.ac.jp



この印刷物は、環境にやさしい大豆油インキで印刷しています。